

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目で150分

## 解答形式

(第1問) 論述式 (第2問) 論述式・記述式 (第3問) 記述式

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

第1問は、昨年度と同様に20行であった。2020年度は3つの史料を読み取らせる出題形式であったが、昨年度に続き史料を扱わなかった。第2問は、4行論述が2題と2行論述が3題。近年、地図や図版を読み取らせる出題がなされていたが、昨年度に続き今年度も地図・図版ともに出題されていない。総行数は2020年度の16行、昨年度の13行に対して、今年度は14行。第3問はこれまで通り設問10問。3年連続で解答数は10個、4年連続で1行論述は出題されなかった。

## 出題の特徴

第1問は8世紀から19世紀までの時期におけるトルキスタンの歴史的展開を20行(600字)以内に記述させる問題であった。2018年度(22行)を除いて、近年は20行での出題が続いている。指定語句は2020年度の6つ(3つの史料を扱うことが求められているため、実質的には9つともいえる)、昨年度は7つに対し、8つであった。第2問は2行～4行の論述が中心で、問(1)でハンムラビ法典、イランの白色革命、問(2)でマグナ=カルタ、マキアヴェリの『君主論』、問(3)で変法運動などが問われた。第3問については、2018年度に図版・地図・史料を用いた出題がなされたが、今年度については例年通りシンプルな出題形式が踏襲された。

## その他トピックス

第1問、第2問、第3問ともに、定番となっている出題形式が踏襲された。第1問はトルキスタンの歴史的展開というテーマ。1000年以上の時間軸に立って東西トルキスタンの歴史を俯瞰することが求められている。第2問では古代オリエントから20世紀後半の白色革命まで、幅広い地域・時代に関する出題がなされた。特定の範囲のみに注力するのではなく、一般的な学習をしっかりと行ったかどうかの結果を分けたと思われる。第3問は例年通り平易であり、最低でも1問ミスまでにとどめたい。

ズバリ的中として、第3問の間(4)「ラス=カサス」は、第2回東大オープン問(3)(a)で「ラス=カサス」を記述させる問題と一致した。また、第3問の間(1)「アクスム王国」については、直前講習東大世界史テスト第1講第2問の間(3)で、アクスム王国を述べる問題を扱っている。第1問のティムール帝国崩壊からムガル帝国成立までの過程は、直前講習東大世界史テスト第1講第1問で扱った視点と同様であり、指定語句の「バーブル」を使いこなす際、役に立っただろう。しかしながら、合格点に達するためには、日々の真摯な学習が何より重要なことは言うまでもない。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述	トルキスタンの歴史的展開 (8世紀~19世紀)	「8世紀から19世紀までの時期」における「トルキスタンの歴史的展開」を述べるのが求められている。トルコ化以前の指定語句はないものの、カラハン朝以前の内容をまずは述べる必要がある。問題文中に「ペルシア語でトルコ人の地域を意味する」とあることから、イラン系のソグド人や、トルコ=イスラーム文化におけるイランの影響などについても言及したい。指定語句の「宋」は、宋と金が遼を滅ぼしたことで西遼(カラキタイ)が成立したと結びつける。「アンカラの戦い」は、地理的な情報が読み取れるようにしたい。指定語句の「バーブル」は、単にムガル帝国を建てただけではなく、トルキスタンにおけるウズベク人の進出やティムール帝国の崩壊と関連させて用いること。後は、18世紀の東トルキスタンが清の乾隆帝によって新疆とされたこと、19世紀の西トルキスタンでブハラ・ヒヴァ両ハン国がロシアによって保護国化されたことなどを指摘する。600字以内でまとめるためには、情報の取捨選択に苦慮するだろう。	標準
第2問	論述	法や制度とそれらを支える理念や思想 (古代~現代)	問(1)(c)白色革命の内容が問われている。イラン革命が問われているわけではないことに注意。問(2)(b)エピソード的な章句を示すのではなく、宗教や道徳と切り離れた政治理論を主張したということを示す。問(3)(b)問題文の要求である「主張と経緯」について、康有為による儒学の独自の解釈と変法運動の内容とを結びつけて説明したい。	標準
第3問	記述	戦争や軍事的衝突 (古代~現代)	問(1)はクシュ王国(メロエ王国)、問(2)はアイユーブ朝などと混同しないこと。問(3)アチェ王国を想起する。問われているのは港市の名前なのでアチェ。問(6)はクリミア戦争であることから判断する。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

第1問は、題意を踏まえていかに歴史的な文章を構成できるかが問われるので、論述力を日々研鑽することが大事となる。第2問は基本的な問題が中心だが、要点を的確に指摘できるように内容の理解を深めておかないと高得点は望めない。第3問は平易だが、第1問・第2問との時間配分にも留意しなければならない。基本知識をしっかり習得したうえで、第1問の大論述だけでなく、第2問の短い論述に対しても十分な準備・対策が必要である。年度ごとに出題形式・字数など若干の違いはみられるが、本質的な学力を求められている点では変わらない。時間軸・空間軸に沿って大局的に歴史をとらえることを心がけよう。